

2. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	スバイリエン州農産物組合(SAC)の持続的な経営体制の確立を通じ、貧困農民の生計が向上する。
(2) 事業の必要性(背景)	<p><u>(イ) 実施国における農業分野の現状</u></p> <p>カンボジアでの農産物流通は、大口需要者のニーズに対応できるような卸売業が存在しないため、隣国ベトナム、タイの寡占状態にある。野菜の7割が輸入品で、消費者の多くが農薬被害への不安を抱えているが、無農薬・有機野菜の生産、流通システムは未発達のみである。一方、首都プノンペンでは中間層や富裕層の人口が急激に増加しつつあり、消費市場としての成長には高い期待が寄せられている。日系企業では小売大手のイオンが2014年のショッピングモールのオープンを皮切りにスーパーマーケットの展開を計画しており、中間層や富裕層向けの付加価値のついた農作物への需要が急激に高まると見られている。</p> <p><u>(ロ) 対象分野・地域のニーズ</u></p> <p>一方、カンボジアにおける貧困層の大部分は農村部に居住している。スバイリエン州は7郡690村に約53万人が居住し、人口の約9割が農漁業に従事している。当団体は、2011年に同州のベトナム国境ゲート側にある大型リゾートホテルの一軒への野菜の共同出荷をきっかけに編成されたスバイリエン州農産物組合(以下SAC)に対し、当事業のフェーズIIにおいてはホテルだけでなく新たな顧客開拓として首都向け野菜の生産・販売の強化、運営・経営の安定化を目指して支援を実施した。その結果、現段階において、野菜の出荷量、売上総利益ともに30%前後の伸びを見せるようになった。また、運営についても内規の策定や組織編成が進み、これまで理事が担っていたオペレーション業務を専従マネジャーを雇用して行うことが決められた。また、イオンとはサプライヤーとして契約を結んだところであり、来年6月の開店以降は一日おきの出荷が予定されている。</p> <p>しかし、生産に関しては販売量は増大したものの注文された種類を満たせていないほか、良質な種の不足や農業資材の普及不足など、生産面での課題を抱えている。また、畑の面積が増えるに従って乾季の水不足も深刻になっている。また、出荷を予定しているイオンでは認定無農薬野菜をその他の野菜と分別して販売する予定であり、付加価値をつけて販売できる機</p>

	<p>会ではあるが、顧客や消費者の信頼を得るためには分別出荷管理の体制を立ち上げる必要もある。また、当団体の試験農場はモデル有機農園として農家の学びの場所となる環境が整いつつあり、今後は種や苗作りなど農家のニーズに応える農業センターとしての役割が期待される。</p> <p>運営面では SAC はまだ当団体への依存度が高く、業務も多くの部分を IVY が助けている。理事メンバーの参加意識は高いが、一般の組合員へ情報やサービスが行き渡るまでには至っていない。また、会計処理についても顧客からの多額の未収金が発生したり、資金切れで仕入れ現金が不足するなど、担当者のスキルアップも課題である。</p>
(3) 事業内容	<p>本事業によりフェーズ I で立ち上がった新たな組織体制による SAC の運営の安定化を図り、首都の日系ショッピングモールへの出荷を担うことのできる生産・流通体制を立ち上げる。特に無農薬野菜に関して認知度、信頼性を高め、付加価値向上によって無農薬栽培を行う農民の収入向上を図る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <u>組合リーダーの能力強化を行い組織マネジメントを強化する。</u> <ol style="list-style-type: none"> 1.1. 組合マネジメント研修を行い、組織運営に関するガイドラインを作成する。(対象:組合理事、組合スタッフ、14 名) 1.2. コミュニティー・ビジネス研修を行う。(対象:出荷ゾーン¹リーダー、組合スタッフ、計 32 名) 1.3. 次世代リーダーシップスキル研修を行う。(対象:若年層組合員 10 名) 1.4. 組合のサービスを認知させるワークショップを行う。(対象:組合員 300 名) 1.5. 出荷ゾーンを再構築し、活発でない出荷ゾーンのリーダー再選挙を行う。 2. <u>組合のオペレーションチームに事業管理を指導する。</u> <ol style="list-style-type: none"> 2.1. 管理ソフトを使った経営分析(コストマネジメント、価格分析、会計財務諸表の分析等)の指導を行う。(対象:組合理事 7 名、監査 5 名、組合スタッフ 2 名) 2.2. 管理ソフトのデータに基づいた年度報告書作成、及び事業分析に基づいた事業計画を作成を指導する。(対象:組合理事 7 名、組合スタッフ 1 名) 2.3. 総会資料作成、及び総会開催を支援する。

¹ 60 村を 20 のゾーンに分けて注文、集荷を行っている。ゾーンリーダーは集荷や生産調整を行う。

	<p>3. <u>組合のサプライチェーンマネジメント(供給連鎖管理)を強化する。</u></p> <p>3.1. 収穫後の農産物の扱いについて研修を行う。(無農薬栽培グループ内部管理メンバー15名、ゾーンリーダー20名)</p> <p>3.2. イオン出荷に関する交渉に関して組合を支援する。</p> <p>3.3. 無農薬認定野菜の分別生産管理システムを構築し、サプライチェーンのガイドラインを作成する。(ゾーンリーダー20名)</p> <p>3.4. 組合内の3グループに対しカンボジア有機農業協会の無農薬栽培の認定作業を支援する。(組合員32名)また既存の認定農家7グループの認定更新を支援する。(組合員約70名)</p> <p>3.5. カンボジア有機農業協会の有機米栽培の認定作業を支援する。(組合員56名)</p> <p>4. <u>組合の生産体制を強化する</u></p> <p>4.1. 生産計画システムを構築し、生産調整を促進する。</p> <p>4.2. 契約栽培のガイドラインを作成し、生産者に認知させる。</p> <p>4.3. 農業資材の使用方法を紹介する研修を実施する。(組合員100名)</p> <p>4.4. 組合の運営する農業局店舗(SAC Green Shop)において農業資材の販売を促進する。</p> <p>4.5. 試験農場をモデル農園、農業センターとして機能させる。</p> <p>4.5.1. 試験農場においてパーマカルチャー(持続可能な農業)講師による指導を受ける。(若年層組合員10名)</p> <p>4.5.2. 試験農場においてネットハウスを構築し野菜の苗を育成し、苗、種子、農業資材を販売する。</p> <p>4.5.3. 試験農場に生産者を招待し、技術を共有する。(組合員計30名)</p> <p>4.6. 乾季の水不足対策として自家用ため池の整備を支援する。(組合員30名)</p>
(4)持続発展性	<p>1. 組合がマネジャーを雇用し、マネジャーを中心に業務が行われる。</p> <p>2. 組合の若い世代が育成され、将来運営に貢献する。</p> <p>3. 組合のサービスを充実・認知させることで、組合への信頼度を高め、退会者を出さずに安定したメンバー数を持続する。</p> <p>4. イオンは今後も首都を中心に店舗数拡大を予定しており、注文量の増加が見込まれる。</p>

<p>5) 期待される成果と成果を測る指標</p>	<p>【裨益者数】 SAC 組合員約 300 名</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. <組織運営> 組合の組織マネジメントの土台が作られ、事業が順調に実施される。 【指標】 <ol style="list-style-type: none"> 1) 組織運営に関するガイドラインが作成される。 2) 2014 年度の組合の純益が収益の 10%以上になり、メンバーに収益の分配が行われる。 2. <事業運営> オペレーションチームが事業管理を行う。 【指標】 組合が月間報告、事業分析、年次報告を作成する。 3. <サプライマネジメント> 分別生産管理が行われ、無農薬野菜の付加価値が上がる。 【指標】 サプライチェーンのガイドラインが作成され、認定無農薬栽培野菜売上げの粗利率が認定外の野菜より高くなる。認定農家が 70 名から 90 名に増加する。 4. <生産強化> 市場ニーズに基づいた生産調整が実施され、生産増加のための環境整備が進む。 【指標】 2014 年度(2013 年 11 月～2014 年 10 月)の首都向け野菜の出荷量が前年度より 20%増加する。
---------------------------	---